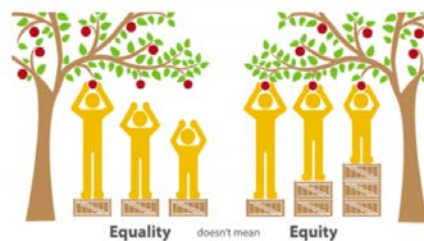


## 【レポート/国際シンポジウム】

平成 29 年 10 月 1 日に本学荒牧キャンパスのミューズホールにて、教育学研究科長期研修院音楽と国際センターの共催により、米国コロラドのアダムス州立大学のドイル夫妻を招いて国際シンポジウムを開催しました。冒頭トレイシー・ドイル教授により、アダムス州立大学音楽科について紹介がありました。小規模地方大学らしい地域に開かれた音楽教育を目指しており、特に音楽を通じて‘Equality’（平等）ではなく‘Equity’（公正）の意識を養成しているというお話はアメリカらしく、印象に残りました。次に基調講演として菅生千穂准教授がアダムス州立大学での 5 か月間研修を通じて現地での地域に根差した生きた芸術を実感したことについて述べた後、フルート、打楽器、ピアノ、クラリネットを使った音楽家による演奏交流が行われました。言葉の違いや文化が異なる者同士であっても音楽を共有することで会場にいる参加者の気持ちが一つになれる素敵な空間が生まれました。違いを超えて共に何かをクリエイティブに創造する「協働」が、国際交流を深めるに違いないと確信できた一時でした。

その後パネルディスカッションでは、中之条ビエンナーレなどの事例を取り上げ、アーティストの活動による地域貢献の在り方について討論し有意義なシンポジウムとなりました。



<http://www.gcorr.org/equity-vs-equality/>